	2026	2030	2040	2050
目標 KPI	自然への負の影響	自社オフィス・保有施設で生物多様性の損失を反転	すべての事業活動による自然への負の影響ゼロ	
	【型枠】外国産非認証材	使用ゼロ		
	「自然KY」	環境分析100%実施	標準化	

Zero

自社活動

自社オフィス・保有施設
- 自然への影響回避・回復
- 回復した自然の維持管理、モニタリング、情報開示
- ネイチャーポジティブに資する技術開発・実践事例としての広報

建材調達
- 【型枠】認証材や国産材への完全移行
- 使用材料分の植林による持続可能な材料調達・生産の実現
- 天然由来資材の影響評価
- 天然由来資材（木材・ゴム認証材など）の持続可能な資材調達への移行

建設現場
- 環境汚染防止（水・土壌汚染の防止）

自然再生・再興活動
- 事業と関連性の高い活動・地域で自社施設・開発による土地改変と自然再生のバランス収支を±ゼロに

Beyond

顧客・社会への価値提供

営業・設計時の提案
- 営業段階実施による影響回避標準化（自然KY）
- グリーンインフラの多機能性を活用した自然再生の実践（健全な水循環：雨水貯留・浸透、Well-being向上等）
- 当社技術を活用した自然再生機会の設計、施工提案（UE-Net®、マチミル、土壌浄化など）
- 自然再生モニタリング・維持管理データ収集からの自然共生技術の開発

地域連携
- 技術研究所、NOVARE、支店社屋等での環境教育、産官学民連携による共創